



発行元：浜松海の星高等学校 学校法人浜松海の星女学院 〒432-8018 浜松市中区規塚3丁目14番1号 TEL.053-454-5376 FAX.053-453-4719



グローバル化により日本の教育水準高める

北脇 当校は来年度から共学化し、学
校名を「浜松聖星高校」に変えて新しく
スタートしようとしています。その際
の教育の大きな柱として、「国際教養教
育」を掲げております。しっかりと世

日本における国際教養教育のトッ
プランナーである「早稲田大学国
際教養学部」。このほど、北脇理事
長とブラッドリー先生が東京・西
早稲田の同学部を訪ね、エイドリ
アン・ピニングトン学部長と「いま、
なぜ国際教養教育か」をテーマに
対談しました。多岐にわたる対談
の詳細を前編後編2回に分けてお
送りします。

界観を持ちつつ、日本文化の知識も併
せ持つて、言語や文化の違う世界の人
たちと一緒に活動していけるよ
うな若者を育てていこう、という趣旨
です。その点で、早大国際教養学部の目
指す所と共通点が多いと思っていま
す。この機会に、貴学部が目指す所を
聞かせいただき、私どもの教育に対す
る考え方を深めるとともに、国際教養
教育の大切さを、浜松という地域の教
育関係の皆様や中学生の皆様にご伝
えたいと考えておりますので、よろ
しくお願い致します。

グローバル化という大きな流
れの中で、日本の国内外で競争が激し
くなっています。ビジネスにおける競
争だけでなく、教育における競争も激
しくなってきたと言えますね。言い換
えれば、昔に比べ留学が普通のことにな
ってきて、大学が国内だけでなく、国
外でも他の教育機関と競争しなければ
ならない時代になった、と考えていま
す。それからもう一つ、日本はよく「ガ
ラパゴス社会」と言われます。私も30年
以上、日本に住んで大学に勤めていま
すが、それは非常に強く感じてきたこ
とですね。ただ、それは一方で日本の強
みでもあります。日本国内で完結した、
しっかりとした高等教育の制度ができ
ている。日本語で書かれた教科書、研究
書が十分にありまして、これらを通して、
日本が世界に提供できる価値がたくさ
んあるわけです。



いま、なぜ国際教養教育か
別談 早稲田大学国際教養学部
特対 ピニングトン学部長に聞く

前編

のランキングは基本的に英語による論
文、研究書を基準にしていますので、日
本語で書かれた膨大な研究書は、どん
なに内容が優れていてもランク付けす
る人たちの視野に入ってきません。で
すから、日本は自らそれを世界に伝え
なければならぬのです。それは日本
の責任だと言えます。また、その逆の面
もありまして、海外の優れた研究を日
本が受け入れていないということもあ

ります。競争が激しいというのは、きつ
い面もありますが、得られるものも多
い。日本の教育水準を高める意味でも
国際化は役に立ちます。グローバルス
タンドアードが身に付きますし、もう一
方で、日本の素晴らしさを世界に伝え
る人材も育ちます。それが「国際」の部
分です。

北脇 なるほど。それでは「教養」の部
分については、
ピニングトン 日本には長い教養教育
の伝統がありますが、伝統的な教え方、
授業のあり方に対して私には不満もあ
ります。当学部が発足する際には、「今
までと少し違う形で教養を教えなけれ
ばならない」と感じていました。実は日
本だけではなくて、アジア全体で教養
教育が話題になっています。去年、私は
シンガポールに行きました。イェール
大学とシンガポール国立大学が設立し
た教養学部があるんですが、それがス
タートする時に、私を含む世界の大学
の学長や学部長が集まって、教養教育

人類愛を基本としてよりよい世界を目指す

北脇 「国際」という面と「教養」という
面に分けてお話をしましたが、まず
「国際」について、かねてから私が疑問
に思っていることをお尋ねしたいと思
います。「グローバル教育」という言葉
も最近はいよいよ広まってきて、日本
も政府や経済界で、「グローバル人材を
育てる必要があるから、そのためのグ
ローバル教育を推進するべきだ」とよ
く言われます。それに対して私たちに
は、「グローバル化」には、光の部





分もあれば影の部分もある」と考えています。ですから、あえてグローバル教育という言い方をせずに、国際教養教育と呼んでいるんですが、国際教養学部は「国際」を進める際に、グローバルゼーションをどう解釈し、どのような姿勢で教育や研究を推進しようと考えられているのでしょうか。

「で」何かを勉強すること。また、もう一つの大きな意味として、こちらの方が重要だと思いますが、すべて英語の授業にすることによって、留学生を受け入れやすくなる、というメリットがあります。当学部の3分の1は日本に來ている外国人留学生で、そうならば教室の中で自然にダイバーシティが生じてくるんですね。ダイバーシティとは、ある意味、「グローバルゼーションによって得る人と損する人が出てくる」ということです。私は、グローバルゼーションをただ肯定するのではなく、それがある以上は何かの対策を取らなければならない、という考え方で「自分には関係ない」と背を向けてしまつては、対策になりません。

最初に申し上げたように、日本の中で守るべきものは何か、変えていくべきものは何か、それをはっきりさせる



には、他の国の人たちと対話することが必要ではないか。グローバルゼーションは様々な定義でありますが、日本の場合、海外とは関係なく日本の中でグローバルゼーションが進んでいきます。人口が減少し、若い労働力が足りない状況となって、いずればはたかさんの外国人を受け入れざるをえなくなります。それに対して日本の社会はどのよ

知識偏重の入試は近い将来なくなる

うな準備をすればよいのか。日本のいいものを残しながら、外から入ってくる人をどう受け入れるかということ、大きな課題となります。

北脇 その点、浜松市は非常に外国人、特にブラジル人が多い土地です。おっしゃる通り、今まで国際化というところ、限られた人の話だと思われていた面がありますが、それはかりではないです。日本国内で普通に生活している人々にとっても、グローバルゼーションは身近なことになっていく。それに対して、その中でどう生きていくか。すべての人間に関わることで、私たちの学校はカトリック系であり、隣人愛の精神が基本としてあります。ですので、それを実践することで少しでも世界を良くしていく。国際教養教育を通して、生徒たちにその力を身に付けてもらいたいと願っています。



北脇 私は、日本の高校の授業は教養教育そのものであり、非常に内容が豊富だと思えます。例えば、日本史や世界史があり、理系なら物理、化学、生物があつて、今の世界、今の日本はどういう歴史的な意味の中で成り立っているのか、それを知ることがまさに教養教育となるんです。その時に、外国人の人から見たらどうなのか、ということも高校の歴史の授業の段階から意識していく。それが大事ではないでしょうか。

北脇 私たちは、日本の高校の授業は教養教育そのものであり、非常に内容が豊富だと思えます。例えば、日本史や世界史があり、理系なら物理、化学、生物があつて、今の世界、今の日本はどういう歴史的な意味の中で成り立っているのか、それを知ることがまさに教養教育となるんです。その時に、外国人の人から見たらどうなのか、ということも高校の歴史の授業の段階から意識していく。それが大事ではないでしょうか。

の学生で、そのうち半分は留学の経験があります。残りの半分の学生がずっと日本で教育を受けてきた。純ジャパです。そうした学生は高校教育の影響で、当学部に入るとバニックスに陥ります(笑)。要するに、きちんと勉強してテストで良い点を取るという教育を受けてきた人は、ゼミに入っていくなり「議論しなさい」「発表しなさい」「自分で調べて自分の意見を言いなさい」となると、どうしていいのかわからないのです。留学経験者は慣れているのでいいですが、日本人の学生の多くは経験がないから苦手。入試のための勉強を重視していますからね。しかし、18歳以下の人口がどんどん減ってきて、今までのような入試はできなくなりますが、私たちがとしては、自分の意見を持つていて、それを表現できる人に来てほしいと思つています。幅広く勉強するのはいいのですが、それだけではダメ。歴史で年号を覚えて、それを答えさせるような入試は、将来的にはなくなると思います。例えば、自分の意見を英語で1時間以内で書きなさいとか、そんな試験になってくると思います。そうなった時に、一生懸命年号を覚えていても役に立たないです。だから、日本人の学生のためにも、もっと早い段階からそういう教育に慣れてほしいと願っています。後編に続く



(取材日/2016年10月20日)



〈後編の主な内容〉

- ◆ 変わっていく、これからの大学入試
- ◆ 「知識偏重」から「参加重視」の教育へ
- ◆ 国際教養教育で強い精神力を養う
- ◆ 勉強する楽しさを実感できる授業を

後編は海の星タイムズNo.16にて掲載

「ここがイイ!海の星」 1年生の本音トーク

Q 入学して約半年。学校生活の率直な感想を聞かせて。

●入学する前は、今まで知らない人たちがばかりの中で、仲間に入っているか不安だったけれど、みんな気さくですぐに仲良しになりました。そんな友達と過ごすときは、いつも素の自分であらわれて本当に楽しい。学校で一番楽しい時間ですか?もちろんお弁当の時間ですね。

●部活では尊敬できる先輩たちがアドバイスしてくれて、とてもやりがいを感じています。授業もとても解りやすい。部活と勉強の両立ができて充実しています。入学して本当に良かったと思っています!

●正直「女子生徒ばかりだ」といじめもあるのかな?なんて思っていたけれど、そんな心配もなし。

●各部屋にエアコンがあり、パソコンも一人ひとりが使えて嬉しい。音消し用装置付きのトイレなど設備が充実していて快適です。体育館もきれいだし、演劇発表のステージ(音響や照明機器など)が完備されているのも驚きました。



Q 先生と親しく会話している様子が印象的ですが、先生方について聞かせて。

●海の星は、先生と生徒の距離がとても近くて、困ったことがあればすぐに相談できるのが気に入っています。担任の今泉先生は、私たちにとって父親みたいな存在です。誰もが尊敬しています。他の先生方も、一人ひとりに親身になって相談に乗ってくれるので、とても心強いですね。

●しかも、女性の先生方の女子力が高い!美しい先生揃いが私たちの自慢です。

●そしてみんなのお母さんの存在がシスターです。登校するとき、横断歩道のところで迎えてくれるときは「さあ、早く渡って渡って」と、私たちが安全に誘導してくれます。ときどき生徒ひとり一人が、シスターとお話する時間があるのですが、悩み事を何でも自由に話すことができます。とても身近な存在です。

●お祈りをする「心の授業」の感想は?

●最初は「どんなことをするんだろ?」と思っていましたが、堅苦しいものではなくて安心しました。洗礼を受けていなくても、自然に学べる雰囲気です。●今まで、キリスト教のことに触れたことがなかったのですが、新たに話を聞いて、自分の世界が広がったように感じます。

●朝と帰りに「祈り」の時間があり、聖歌を歌うのですが、集中できて、生活のけじめになっています。

●少しずつですが、周りの人たちへのやさしさを持てる自分になってきているような気がしています。

●そんな授業の影響かもしれないませんが、老人ホームを訪問しておそうじをしたり、駅で募金活動をしたり、校外活動に参加したときも、嬉しい経験になりました。「暑い中ご苦労様ね」と声を掛けていただきました。自分が動くことで、周りの方のお役に立てることがあるのだ」と実感できました。

●共学化への思いは?

●正直「海の星」の名前が変わってしまうのは寂しくて残念。でも男子生徒が加わることで、元気の雰囲気になると嬉しいです。

●文化祭や体育祭での催しも、もつといるんなことにチャレンジできたら楽しそうですね。

Q これから自分が頑張りたいことは何ですか?

●部活を頑張ります!運動部でよく遠征に出かけます。強豪チームに勝利できるように先輩たちと心を合わせて練習に打ち込んでいきます。もつともつと強くなりたいです。

●念願の海の星吹奏楽部に入部したいです。

で、より一層努力していきたいです。中学時代から吹奏楽部に所属していましたが、「当時はまだまだ考えが甘かった」と身を引きました。レベルアップして練習は厳しいですが、その分、やりがいもありより一層打ち込みたいと思います。

●情報処理部で、ワープロ検定や秘書検定などの資格を取得できるように勉強中です。就職にも活かすことができるので、先生に指導していただきながら頑張りたいです。

●一人ひとりに、さまざまな進路の可能性をアドバイスしてくれるのが海の星の魅力。自分たちの将来のことをいっぱい考えながら、海の星ライフを満喫したいと思っています。



★理事長コラム 何をもちよ学校とするか

浜松海の星女学院 理事長
北脇保之



平成29年度からの共学化、浜松聖星高等学校への校名変更を発表して半年が経ちました。新しい学校への準備が着々と進み、初めての共学の生徒募集にも手がたえを感じています。

新しい学校づくりに当たり、「何をもちよ学校とするか」が根本的な問題です。私は、単純化を恐れずに言えば、学校の評価は「どのような人間を送り出したか」によって決まり、さらにその「人間」は「総合的にどのような人間であるか(人格)」と「どのような能力を持っているか(学力)」によって測られると考えます。

この点からすると、世間の高校中学に対する評価は、未だに大学合格特集の週刊誌が大量に売れるように、偏差値の高い大学への進学実績にとらわれすぎているように思います。かつてはよい大学を出てよい会社に就職することがその人の一生の幸福を保証するかのようには言われたことがありましたが、前世紀の終わりから銀行、証券会社、電器メーカーなど数々の大企業がつぶれてきた様子を見れば、このような見方が幻想であることははっきりしています。人工知能の発達やグローバル化により将来予測が難しくなっている現在、大学入学時点の知識量よりも、一生積極的に学び続け新しい事態に対処できる、「人格」と「学力」がますます大事になっていきます。

「人格」は数字で表すことができないだけに、この面の教育の成果を示すことは大変難しいことです。しかし、浜松聖星高校は、その難しさを避けることなく、「人格」と「学力」の両面で評価をいただける学校を目指してまいります。

★校長コラム 反応閾値

浜松海の星高等学校 校長
重信明利



「アリとキリギリスの話」はみなさんもよく知っていると思いますが、実はアリの世界にもまめに働くアリとずぼらなアリがいるという話は、あまり知らないという人も多いと思います。

人間の場合、部屋がちよっとでも散らかっている、すぐに掃除に取り掛かれないと気が済まない人と部屋がちよっと散らかるのを掃除する気配もない人がいますが、その掃除に取り掛かれない人がいる、その掃除に「反応閾値(はんのういきち)」と言います。つまり、あまり散らかっていないのに掃除をする人を反応閾値が低いと言ひ、相当散らかっていないと腰を上げない人を反応閾値が高いということになります。ここでいう部屋の掃除はあくまで一例であって、反応閾値は「行動を起こすまでの外部からの刺激の加減」なのです。

アリの世界でも一匹一匹でこの反応閾値が違い、反応閾値が低めな(まめに)アリが8割いるとすれば、反応閾値が高めな(ずぼらな)アリも2割は確実に存在します。

ここで、あるアリの集団からこの反応閾値が高い2割を取り除けば、この集団はすべてまめに働くアリになるかという、実はそうではありません。まめに働いていたアリの2割がずぼらなアリに変身するというのです。つまり、アリの社会ではずぼらな者が2割は必要なのです。なぜ必要なのかというと(様々な説はありますが)アリ社会は働き者ばかりだと自然界の中で滅亡を早めるらしいのです。言い換えれば2割の「働かないアリ」がいざとなった時にアリ社会の滅亡をくい止めているのです。

アリの社会と人間の社会を同じと考えてはいけません。人間の社会でも社会集団の全員が同じ方向を向いていることはほぼありえません。集団の中には反応閾値が高い「働かない人」(あまのじゃく)は必ずいます。学校、クラス、部活という社会では排除されがちなのに、実はそれらの社会を維持する「キーマン」になるのかもしれない。

「人格」と「学力」の両面で評価をいただける学校を目指してまいります。

「何をもちよ学校とするか」が根本的な問題です。私は、単純化を恐れずに言えば、学校の評価は「どのような人間を送り出したか」によって決まり、さらにその「人間」は「総合的にどのような人間であるか(人格)」と「どのような能力を持っているか(学力)」によって測られると考えます。

留学
レポート

I want to go back to America again.

— 2年 片山 美帆



「英語って難しい。」日本人にとって英語とは外国語です。普段使うことがないからこそ苦手だと思う人は多いのではないのでしょうか。私もその一人でした。中学生の頃から今までずっと苦手で嫌いだっただけが英語だった私を変えてくれたのが、このアメリカ研修です。この研修を体験していない人は「たったの二週間で何が変わるの？」と思うかもしれません。しかし私は変わりました。

私がアメリカ研修に参加したいと思った理由は、ディズニーランドに行けることと、好きなアーティストがアメリカが好きだからというものでした。とても単純で不純な動機でした。英語が嫌いな生徒がアメリカに行きたい理由なんてそんなものだと思います。けれども、たとえそれでも良いと思います。

英語を話すことができない私は最初の二日間、全くと言っていいほど何も話せませんでした。みんなの陰に隠れて、アメリカ人と目を合わせないようにしていました。まるで空気のような私に話しかけてくれた人がいました。ずっと私たちを案内し世話をしてくださったパスター・ジャン(ジャン教師)でした。「Can you drink coffee?」これくらいなら私でも答えられました。するとその後も簡単な英語で話しかけてくれました。おかげで私の緊張がほぐれ、少し英語で話してみようかと思うようになりました。日がたつにつれ、様々な場面で英語での質問に答えられるようになり、また自分からも他人に英語で話しかけるようになりました。

これらの経験を通して気づいたことがあります。アメリカ人の多くの方は、常に笑顔で私に接してくれました。話す時はしっかり相手を見て話し、聞く時はうなず

いたり相槌をうったりしてくれました。「そんなの日本人と変わらない」と思うかもしれませんが。本当にそうでしょうか。私はできません。初対面の人と話すときは緊張してしまい、目を見て話すなんて絶対にできません。私が出会ったアメリカ人はそれが普通にできるのです。これは挨拶の仕方にヒントがあるのではないかと思います。廊下や通路でお互いにすれちがう時には「Hi! How are you?」と何度も言われました。日本では「元気ですか」と頻りに言う人はあまりいないと思います。しかしこの挨拶が日本人とアメリカ人のコミュニケーション能力の差ではないかと私は感じました。

このような環境になじんでいった私は、いつしか自然と挨拶し、目を見て話し、笑い、たくさんの思い出を作ることができました。「たった二週間、されど二週間。」この二週間で多くのことに気づき、私は大きく変わりました。今ではアメリカが大好きです。嫌いな教科は英語ではありません。むしろ大好きです。苦手教科をすぐに克服することは難しいと思いますが、英語を好きになった今、一生懸命勉強したいという気持ちが強くなりました。もっともっと英語を勉強して、もっともっと話せるようになり、またアメリカに行きたいと思います。とても素敵な二週間でした。

★ ★ ★ 部 活 動 情 報 ★ ★ ★

吹奏楽部

●第64回全日本吹奏楽コンクール銀賞

陸上競技部

●第19回東海高等学校新人陸上選手権大会出場
女子800m 平井美羽

★ キャンパスカレンダー ★

3月	2月		1月	12月		11月		
1日 [水]	27日 [月]	26日 [日]	4日 [土]	24日 [火]	24日 [土]	14日 [水]	18日 [金]	5日 [土]
卒業証書授与式	3年生を送る会	第20回定期演奏会	保護者対象進路説明会	マラソン大会	海の星のクリスマス	クリスマスツリーの下で	物故者追悼式	合唱コンクール

今年度、マレーシアからの留学生Maxさんは、日本での生活にも慣れ、毎日楽しい学校生活を送っています。(以下、本人の学校生活の感想です)



Hi, my name is Max. Being in Japan felt like an adventure. I was dropped into a new world, a new environment and I learned many things from my surroundings. In the beginning, my Japanese was really bad. I had some difficulties on communication, but my classmates tried to talk to me. I learned so much from them. I joined the Global Issue Club and Japanese Dance Club. I had always been in a normal co-ed school, so being in an all-girls school was very different and exciting. In a co-ed school girls do not always speak out,

the boys are more open and talkative but in Uminohoshi I felt a different vibe, a different atmosphere. All the girls I met have unique personalities and traits. The best part about Uminohoshi was that I was welcomed with open arms, and many students tried to converse with me, trying to get to know more about me. I am so glad to have been placed in Hamamatsu and in Uminohoshi. Next year, Uminohoshi will become a co-ed school so I am really glad that I am here right now. The Sports Festival is my favorite event in school. I

got to know more people because 2nd-year Matsu and 3rd-year Matsu worked together and won a first prize in Tug of War and the cheer competition. The Matsu girls all worked together and won in the cheer competition. There was a club relay and everyone was dressed accordingly for the race. I ran in a yukata because I was in the Japanese dance club. Everyone was having so much fun and the weather was great. It was a very memorable moment as it was my first ever Sports Festival in Japan. I am so glad to be a part of Uminohoshi.

「海の星のクリスマス」

2016年12月24日(土) ★アクトシティ浜松 中ホール
★16:00 開場 16:30 開演

- ◆内 容 / 第1部 創作劇「ステラマリス」
第2部 吹奏楽コンサート
- ◆出 演 / 吹奏楽部・ダンス部・合唱部・演劇部・放送部 ほか
- ◆入 場 料 / 前売券800円 当日券1,000円
- ◆注 意 事 項 / 未就学児童は入場できません。
車椅子席についてはお問い合わせください。
ご購入されたチケットの払い戻しはできません。
- ◆お問合せ / 電話 053-454-5376
浜松海の星高等学校「海の星のクリスマス」実行委員会

前売券のご購入

- 浜松海の星高校での販売 11月1日(火)～12月21日(水)の平日9:00～16:00
- アクトシティ浜松チケットセンターでの販売 11月1日(火)～12月23日(金)10:00～19:00 地下1階インフォメーションにて

前売券のご予約

- 電話予約 / 予約期間 11月1日(火)～12月21日(水)の平日9:00～16:00
電話番号053-454-5376 ①お名前 ②生年月日 ③枚数 をお伝えください。
- ネット予約 / 予約期間 11月1日(火)～12月21日(水)最終日は16:00まで
予約方法→<http://www.uminohoshi-hcd.jp> 浜松海の星高等学校ホームページから予約画面にお入りください。
ネット予約でお客様にうかがう内容 / ①お名前 ②生年月日 ③枚数 ④ご連絡先電話番号

予約券の引換え

当日15:30～16:15「予約券引換え窓口」にてお名前をお申し出ください。
代金と引換えてチケットをお渡します。
16:15を過ぎますと予約は無効とさせていただきます。ご注意ください。

入試関連スケジュール

場所 浜松海の星高等学校
対象 中学生とその保護者様

秋のオープンスクール
 11月12日(土)・26日(土)

入試説明会
 12月10日(土)・17日(土)

個別相談会
 12月24日(土)・1月7日(土)